

7月

今回のロータリー財団考は、「使命」「ポリオ」「平和」「財団への寄付」について取り上げます。

使命 「世界でよいことをしよう、というのは単なるスローガンではありません。財団の目標であり、使命であり、私たちが原点へと立ち返らせる言葉です。この標語は、財団の存在意義を分かりやすく表現しています。また、私たちが持っているすべてを活かし、最大限のよいことをしていくために必要なガッツを引き出してくれるのです。私たちがロータリーを通じてよいことができるよう、支援してくれるのが財団です。ロータリアンの奉仕を広げ、力を高め、活動をよりパワフルで効果的なものにしてくれるのです。一言で言えば、財団があるからこそロータリーのさらなる活動が可能になるのです。」

— 2004-05年度 RI 会長、グレン E. エステス・シニア

ポリオ 「エチオピアで幼い子どもにポリオワクチンを投与した経験が、私の人生を大きく変えました。くったくなく遊ぶ子どもたちを眺めながら、この子たちの未来が明るいものになるとは限らないが、少なくともポリオのない人生を送ることができるのだと私は思いました。人々に希望をもたらすロータリーの活動に終わりはありません」

— 元地区ガバナー、ジョン・ジェイコブ・ザッカー

平和 ロータリー財団とロータリアンは、ロータリー・センター・プログラムを通じて世界理解と平和を実現し、人々の間に寛容と協力の精神を広めるために、日々努めています。ノーベル平和賞を受賞したデズモンド・ツツ大主教は次のように述べます、「戦争のない世界、そして飢餓のない世界を作ることには可能だと、ロータリー平和フェローならびに、この私も信じています」

財団への寄付 「ロータリーでは、地域のプロジェクトを支援するか、ロータリー財団を支援するかという取捨選択をしなければならぬと考える人がいます。実際は、財団を通じてロータリーが人々のためにいかに役立っているかを強調すれば、寄付の精神も全体的に高まり、奨学金や地域の奉仕活動への寄付が増えるとともに、会員が地域参加型のプロジェクトに積極的に参加するようになるでしょう。寄付を習慣とするクラブは、あらゆる活動に熱心になるからです」

— ロータリアン、ロン・カール

8月：会員増強および拡大月間

今回のロータリー財団考は、「マッチング・グラント」「ポリオ」「財団支援」について取り上げます。

マッチング・グラント ヘニング・ソークナエスさんは、ロータリーで最も誇りに思える瞬間をいつでも思い出すことができます。それは、セルビア中央にある病院を修復するために、複数のロータリー・クラブの支援によって実施された社会奉仕プロジェクトに参加したときのことです。約 15 万人の患者のほとんどがハンガリー系セルビア人というこの病院は、近代的な技術設備を欠き、公共と民間の資金で辛うじて運営されている状態でした。病院の心臓病センターをフル回転させることを目的としたこのプロジェクトでは、新しい設備の導入と医療スタッフの指導に総額 120 万ドルの資金がかかりましたが、マッチング・グラントによってこの費用の一部が賄われました。

ポリオ 「私はロータリアンとなってもう長いですが、特に頼まれることがなかったので、財団に寄付したことはありませんでした。私の世代はポリオによってかなり辛い思いをしましたから、ある年にクラブ会長がポリオ・プラスに寄付する誓いを立てたときは、私もポリオ・プラスに貢献しようと毎月の寄付を始めました。年度の終わりには、寄付をすることが家賃の支払いのように習慣化していました。その習慣は何年も経った今日も続いており、年を重ねるごとに財団がいかに人々に役立っているのかをより一層実感します」

— ロータリアン、デーブ・ベリー

マッチング・グラント 小さなクラブでも、マッチング・グラントに参加することで大きな貢献ができます。第 5500 地区のマラナ・ロータリー・クラブの数名のロータリアンは、ジンバブエを旅行中、飢えに苦しんでいる男性に遭遇しました。そこでロータリアンはヴィクトリア・フォールズ・ロータリー・クラブならびにロータリー財団と協力し、村全体の食糧を確保でき、未来に自足的な生活ができるような菜園を作りました。「私たちの小さなクラブが、マッチング・グラントを通じて、助けを必要としている人たちのためにこれほどまでの貢献できたのは実に素晴らしいことです。ロータリーとその会員、そしてロータリー財団を大変誇りに思います」

— ロータリアン、ランディ・ブルックス

財団支援 『人生の価値は、何を得たかによってではなく、何を与えてきたかによって決まる』— ロータリアンの指針として、この格言ほどふさわしいものはなく、財団の活動を支援しようと私たちを奮い立たせる言葉はありません。他者のために奉仕を行う非営利組織にとって健全な財団を有することはこの上なく大切であり、ロータリーはこの点において恵まれています。この世界から疾病、飢餓、貧困、そして絶望をなくすために、私たちは分かち合いの心をもって時間、リソース、知識を捧げていく — 私たちはまさに『与える』ことを本分としているのです」

— 地区ガバナー、ディーパ・ウィリンガム

9月：新世代月間

今回のロータリー財団考は、「国際親善奨学金」「毎年あなたも 100ドルを」「財団プログラム」について取り上げます。

国際親善奨学金 「今の私があるのは、一重にロータリーのおかげです。奨学金プログラムは、私が今までに経験したことのないような大きな世界を教えてくださいました。スペイン語に堪能になっただけでなく、奉仕活動を通じて、人々の生活に関わることの価値を学ぶことができました」 こう話すのは、元国際親善奨学生のチェサ・ボウデンさんです。ボウデンさんは、『Gringo: A Coming-of-Age in Latin America』の著者です。

毎年あなたも 100ドルを 「ロータリー財団を通じて、クラブは、人々の生活に変化をもたらし、世界をより良い場所にしていくためのプロジェクトを計画し、実施することができます。財団の『毎年あなたも 100ドルを』を支援することは、人々と世界の平和に長期的な成果をもたらすプロジェクトを直接支えることなのです。私たちのロータリー財団を支援し、世界理解と平和を促進していきましょう。それがロータリアンとなった私たちの天命です」

— 第 5030 地区、マイク・モントゴメリー地区ガバナー

国際親善奨学金 元国際親善奨学生で青少年プログラムにも参加したライアン・キャリアーさんは、次のように述べています。「どこかを旅行で訪れることは誰でもできますが、これは、ある場所に実際に住んで地域の人々と知り合い、彼らの考え方を学び、信頼を得て真に受け入れられることと同じではありません。国際親善奨学金プログラムと青少年交換での経験を通じて、人生をかけて大きなことに挑戦する自信ができました。ロータリーでの経験がなかったら、今私に与えられている機会を得ることはなかったでしょう」 キャリアーさんは現在、元ユーゴスラビア関連の事例を扱う国際犯罪法廷の法律事務員として活躍しています。

国際親善奨学金 ロータリーの支援を受け、米国ノースカロライナ大学で公衆衛生の学位を取得した元国際親善奨学生、木下倫子さんは、コンゴ民主共和国で人道的な危機に見舞われている人々を助けています。2008年、同国では、反乱軍と政府軍の衝突により 25 万人もの人々が移動を余儀なくされました。「ロータリーの奨学金がなかったら、ユニセフで紛争難民を救っている今日の自分はなかった」と木下さんは話してくれました。

財団プログラム 「研究グループ交換のチームを受け入れ、そのメンバーと会う機会、地区補助金やマッチング・グラントを申請する機会、『毎年あなたも 100ドルを』の寄付者として表彰される機会や、ポール・ハリス・フェロー、大口寄付者、ベネファクターとして認証される機会は、すべてのロータリアンとクラブに与えられています。これらの機会のほかにも、ロータリー財団は、ニーズを抱えた人々、そしてそのニーズに応えようとする人々のために、さらに多くの機会を提供しています」

— ロータリアン、トム・マッキン

10月：職業奉仕月間／世界ポリオデー(10月23日)

今回のロータリー財団考は、「学友」「ポリオ」「毎年あなたも100ドルを」について取り上げます。

学友 何百万人という途上国の子供たちに栄養価の高い食糧を供給してきた元国際親善奨学生のアレックス・ブキャナンさんは、ある種の「達成感」を感じていると言います。メルボルン・ロータリー・クラブ(オーストラリア)の会員であるブキャナンさん(75歳)は、食品技術者として高たんぱく質の食品「オーストラリア・ミルク・ビスケット」と「ハイ・エナジー・ビスケット」を開発しました。これらのビスケットは、現在、オーストラリアで国際食糧援助の必需品となっています。これら数多くの業績を称え、ロータリー財団はブキャナンさんに学友人道奉仕世界賞を授与しました。

ポリオ 「ポリオ・プラスの支援においては、元ポリオ患者の力を借りることもできます。元ポリオ患者は、撲滅活動に対して実に大きな影響を与えられる存在です。言うまでもなく、身をもってポリオと闘った経験のある彼らほど、ポリオ撲滅の重要性を理解している人はいません。元患者たちは、残る1パーセントのポリオウイルスを撃退して撲滅という歴史的偉業を達成するよう、ロータリアンに強く訴えかけることができます。世界規模で展開される撲滅活動の最終局面は、決して容易ではなく、そこで交わされる数字の大きさに私たちは怖気づいてしまうこともあるかもしれません。しかし、そんな時は、次のことを思い出していただきたいのです。ポリオをなくせば、世界のどこかで健康な子どもが、太陽の下で楽しく遊びまわることができるのだ、ということ。すべての子どもの代弁者として、皆さまに感謝いたします」
— ロータリアン、テリー・トーン

ポリオ 「鉄の肺」は、1940～50年代にアメリカ合衆国で発生したポリオ流行の恐ろしさを最もよく物語るものです。テネシー州ジャクソンに住んでいたダイアン・オデールさんは、2008年に亡くなるまで、61年間の生涯のほとんどを「鉄の肺」の中で過ごしました。「ダイアンは、ポリオがきっと撲滅されると、前向きに考えていました」と、子ども時代の友人でロータリアンのシェイラ・キャンベルさんは振り返ります。「彼女は、ロータリーの活動にとっても協力的で、子どもたちが自分と同じ苦しみを味わうことのないようお願い、祈っていました」

毎年あなたも100ドルを 「世界は紛争と争いに満ちていますが、人々の考えは基本的に同じようなものだとは私は信じています。争いの根本的な原因は、貧困、疾病、飢餓、非識字といった問題です。ロータリー財団は、こうした深刻な問題を解決する活動に取り組んでいます。財団に毎年寄付をすることにより、私もこうした活動にささやかな貢献をすることができます。私の寄付は、財団のリソースとなって価値が最大に高められ、助けを必要とする人々に支援を提供するために活用されます」
— テリー・バーグマン元地区ガバナー

11月：ロータリー財団月間

今回のロータリー財団考は、「財団支援」「財団を祝う」「毎年あなたも100ドルを」について取り上げます。

財団支援 「ロータリー財団は、私たち全員ものです。私たちが世界でよいことをしていく上での最大のリソースなのです。ですから、その財団が堅固なものとなるよう支援していくことは、私たちの役目なのです。財団の活動を支えるために、今年度もすべてのロータリアンに寄付をしていただけることを、心から願っております」

— 2004-05年度 RI 会長、グレン E. エステス・シニア

財団を祝う 「ロータリー財団は、国際ロータリーの宝です。私たちが最も強く追い求める夢を、最も素晴らしいかたちで実現してくれるものです。ロータリー世界に限らず、政治の世界も、ロータリー財団がロータリアンの寛大さを最もよく表したものだとして認識されています。その寛大な心により多くの恩恵がもたらされ、人類の課題を解決するために必要な支援や協力がもたらされます。不可能を可能にするのは神様だけですが、ロータリー財団は、人間が達成しうることを最大限に実現することができるのです」

— 1990-91年度 RI 会長、パウロ B. C. コスタ

財団を祝う 「1905年以来、ロータリアンは多くの国々で大勢の人々がより良い生活を送れるよう道を照らす『聖火ランナー』として活躍していました。オリンピック走者と同じように、不寛容、無知、疾病、そして飢餓という人間世界の闇に光を当てる松明を先人から受け取り、人々に、ロータリーのいたわりの心とその活動を知ってもらいましょう」

— 1979-80年度 RI 会長、ジェームス L. ボーマー

毎年あなたも100ドルを 「ロータリー財団は、クラブと地区の奉仕活動の効果を何倍にも増大させる力を持っています。実際に、大規模なプロジェクトが行われるようになった財団の人的補助金によって、これまで以上に多くの人々の生活の質が格段に向上しています。「毎年あなたも100ドルを」を通じて年次プログラム基金に100米ドル以上のご寄付をいただくことで、子供たちとその家族の「夢をかたちに」するために手を貸すことができます。また、恒久基金への寄付を通じて強力な基金を築き、子供と家族の将来のニーズに応えるために手を差し伸べることができるのです」

— 2003-04年度 RI 会長、ジョナサン・マジリアベ

12月：家族月間

今回のロータリー財団考は、「ロータリー財団を通じて遺産を残す」「財団支援」「3-H 補助金」「財団の補助金」について取り上げます。

ロータリー財団を通じて遺産を残す 「ロータリー財団は、子どもたちにポリオワクチンを投与し、飲み水やシャワーのための水を得るために井戸を掘り、教育の機会を提供し、そのほかにもさまざまなことを行って、世界中の人々の生活に大きな影響を与えてきました。遺贈友の会会員となることによって、これらの重要な活動がこれからも継続されていくように支援することができます。今日、ロータリーが実施しているプロジェクトやプログラムが皆さんにとって重要な意味をもつのであれば、明日もロータリーがこれらを続けていけるよう、どうか遺贈友の会会員となってご支援ください」

— ロータリアン、ジーン・ウォルク

財団支援 「ロータリー財団は私たちの財団ですから、私自身、毎年財団に寄付することの大切さを信じています。私が寄付をしなかったら、ほかの人たちに寄付をお願いすることなどできません」

— 地区ガバナー、アトマラン・ラム・グワンデ

3-H 補助金 ネパールは、家族計画の知識も経済発達の機会も乏しく、幼児の死亡率が最も高い国です。こういった問題に取り組もうと、ロータリアンは 10 の遠隔地域を対象に、出産前後のケアを提供するために必要な集中的研修プログラムを開発しました。このプログラムによって、52 人の若い女性が助産看護師としての専門技能を修得することができました。カトマンズ・ミッドタウン・ロータリー・クラブとダルムシュタット・ベルグシュトラッセ・ロータリー・クラブ(ドイツ)の協同によるこのプロジェクトは、ロータリー財団の保健、飢餓追放および人間性尊重(3-H)補助金、283,725 米ドルを得て実現しました。

財団の補助金 ホンジュラスのヌエバ・エスペランザは持続可能な発展をめざすコミュニティで、ハリケーン「ミッチ」によって生活の糧を奪われた家族の救済という目的のもと、445,000 米ドルのロータリー財団の補助金を受けて設立されました。このプロジェクトにより、コミュニティに住む人々に、眼科治療、歯科治療、薬、医療設備、本、コンピューターなどが提供されました。さらにこのプロジェクトでは、女性が紙を作る手工業ビジネスなどによって収入を得ることができるよう、マイクロクレジット(小口融資)の提供も行われました。

財団支援 「助けた子どもの命にどれだけの価値があるのかは誰にも分からないことかもしれません。しかし、それが自分の子どもだったとしたら、お金に換算できない価値があると分かるはずですよ」これは、ジェームス L. ボーマー元 RI 会長の言葉です。ロータリアンとロータリー財団は、もてる力をすべて尽くして、こうした子供たちのために活動しています。年次寄付へのご協力をよろしくお願いします。

1月：ロータリー理解推進月間

今回のロータリー財団考は、「財団を祝う」「マッチング・グラント」「研究グループ交換」「未来の夢」について取り上げます。

財団を祝う 「世界には、能力や意欲、あるいは組織的なリソースがないために立ち向かうことのできない難しい問題があります。しかし私たちは、このような問題に取り組む力があります。財団に支えられている私たちは、ロータリーを通じて、私たちの持ちうるものを、愛情と思いやり、純真な寛容の心を持って、独自の形で分かちあうことができるからです」

— 2004-05年度 RI 会長、グレン E. エステス・シニア

マッチング・グラント 南アフリカのポート・アルフレッドにある児童養護施設「貧しい子どもたちのためのエホバ・ジレ・ヘブン」は、エイズを患った 57 人の子どものために設立されました。4 つの小さな部屋で生活している子どもたちには、小さなトイレが一つあるのみです。また、子どもたちは清潔な水を使用することができませんでした。しかし、施設はロータリー財団のマッチング・グラントによる支援を受け、一筋の希望を見出しつつあります。新しいベッドに複数の洗面台やシャワーに加え、遊具や業務用洗濯機、また新たなキッチン用品が施設に提供されました。さらに、野菜栽培用の温室が設置されました。そして何よりも、子どもたちはきれいな水が使えるようになったのです。子どもたちに希望を与えるため、年次寄付へのご協力をよろしくお願いします。

研究グループ交換 ビル・カドワラダー元 RI 理事は、20 年以上も前の GSE で生まれたきずなについて回顧します。彼の GSE チームは、32 年間、受入れチームと電話で連絡を取り合っています。「1978 年、第 320 地区（インド）へ旅行したときと比べ、今では同地域に 8 つの地区があります。マドラス市（現チェンナイ）には 4 つのロータリー・クラブしかありませんでしたが、今では 80 クラブに増え、そこだけで一つの地区を形成しています。チームを率いてインドに旅行した当時、私はまだ 40 歳で、地区ガバナーにもなっていませんでした。現地で未来のガバナーとなる素晴らしい人たちと生活し、協力して活動した経験がきっかけとなって、私もガバナーになれたのだと信じています。そして私は、インドの素晴らしい地区でチームリーダーとして GSE を率いたこの経験を土台として、RI 理事の任務を務め上げることができました」

未来の夢 「未来の夢は、これから大きな進化を遂げるプロジェクトです。小さなクラブもプロジェクトに加わり、より大規模で持続可能なプロジェクトを実施するために、積極的に地区内外のクラブと協力する方法を見出しつつあります。このようなプロジェクトによって何千もの人々が恩恵を受けるでしょう。そして私たちは、『世界でよいことをしよう』という使命を遂行しているのだと、胸をはって主張することができるでしょう。未来の夢計画を実行していくにあたり、皆さんにはぜひ、幅広い視野をもって活動していただきたいと思います」

— ロータリアン、セシリア・バブカーク

2月：世界理解月間／世界理解と平和の日(2月23日)

今回のロータリー財団考は、「財団支援」「飢餓」「奉仕」「年次寄付」について取り上げます。

財団支援 「ロータリー財団では、資金と人力がかみ合うことによって、効果的な活動が生まれ出されます。アーチ C. クランプの言葉にもあるように、『資金の力には限りがあり、個人による奉仕は資金がなければ効果がない。この二つが揃って、はじめて文明にとっての僥倖となり得る』のです」デイビット C. フォーワード著「奉仕の一世紀：国際ロータリー物語 (A Century of Service: The Story of Rotary International)」より抜粋。

飢餓 8億5,400万ドルのお金、8億5,400万個のチョコレート、8億5,400万個のダイヤの指輪、8億5,400万人の人々、皆さんはこれらを想像することができますか。このような莫大な数字は想像することさえ難いと思いますが、世界には、慢性的な飢餓に苦しむ人々が8億5,400万人いるとされており、こうした人々は、日々を生き延びるための食糧を必要としています。飢餓は疾病の最たる原因となり、発展途上国の経済にさらに大きな打撃を加えます。飢餓と栄養失調に苦しむことなく生きることは、基本的人権であり、ロータリー財団はこれらの問題を解決するために活動しています。財団のマッチング・グラント・プロジェクトの多くは、飢餓の問題を軽減することを目的としており、ロータリアンは日々、この目的を達成するために尽力しています。年次寄付へのご協力をよろしくお願いします。

奉仕 「活動を楽しみながら他者を助けること、これこそ、ロータリーならではの醍醐味ではないでしょうか。私たちは、ロータリー財団や地域の奉仕プロジェクトを通じて資金、時間、そして才能を捧げることが、ロータリアンとしての喜びを味わう一番大切な方法であることを忘れてしまいがちです。この喜びは、地域の人々と一緒に行う奉仕活動や募金活動であり、財団を通じて世界や地元で行われている活動を人々に伝えることであり、あるいは、人々に手を差し伸べたときに感じる、温かで、満ち足りた感情なのかもしれません」

— ロータリアン、ロン・カール

年次寄付 ロータリアンのトリーシー・デュエフェッドさんはこう問います。「もし、世界人口の3分の2にあたる約40億の人々が1日2ドルで生活できるとしたら、残りの3分の1の人たちは少なくともその生活を支えるために支援を提供すべきではないでしょうか」年次寄付をご検討いただけますようお願いいたします。

3月：識字率向上月間

今回のロータリー財団考は、「財団プログラム」「財団を祝う」「財団支援」について取り上げます。

財団プログラム 「すべての母親が赤ん坊の名前を書き記し、その子らが自分の名を書けるようになるまで無事に成長するような世界が、いつの日か実現することでしょう。それは、ポリオから救われ、すべての人々が感染の危険におびえることなく清潔できれいな水を飲むことができ、私たちみんなが平和な世界できれいな空気を享受できるような世界です。これらは、ロータリー財団のプログラムを通じて達成されることでしょう。そのためにも、私たちは毎年、ロータリー財団にいくらかの貢献をしていかなければなりません。

— 元地区ガバナー、ドン・グレゴリー

財団プログラム 「慈善寄付は情動的な反応だということを忘れないでください。情の力は、ポリオ撲滅の話をするときに最も強くなります。年次プログラム基金についての話も同様に感情を刺激するものです。ロータリー財団が提供する国際親善奨学金プログラム、マッチング・グラント、地区補助金、研究グループ交換などによって、人々の生活に大きな変化をもたらすことができるからです。現実には起きている事例を紹介することほど、成功を導く上で大切なことはありません」

— 元ロータリー財団地域コーディネーター、ジョー・ラゲス

財団を祝う 「ロータリー財団は世界で最も定評ある民間財団の一つとして認められています。私たちロータリアンは、今この財団を通じて世界中に広がる草の根の力を発揮し、国際的な評価をてことして、食糧や水の確保といった大きな問題に解決の手を差し伸べる絶大なチャンスを迎えています。しかし、これは財団の資金が追いつく限りにおいてです。年次プログラム基金と恒久基金は、世界のニーズに応えるために欠かせないロータリー財団を支える2本柱です」

— 2003-04年度 RI 会長、ジョナサン・マジアベ

財団支援 「ロータリアンにはたいがい、達成したい人道的目標があります。このようなロータリアンは、自分たちだけでは普通できないようなことでも、財団に寄付することによって世界中でできるようになるということを知っているものです。多くの問題を抱える現在の世界でロータリー財団が必要とされているのも、このような大きなことを私たちが実現できるからです。そして、この上なく重要な財団の活動を続けることができるかどうかは、皆さまのご支援にかかっています」— 2004-05年度 RI 会長、グレン E. エステス・シニア

財団プログラム 「ロータリーの支援なしでは到底行うことができなかったプロジェクトに参加することができたのは、ロータリー財団のおかげです」とロータリー財団地域コーディネーターのハリー・ヘンダーソンさんは述べます。「インドの第 3160 地区と協力して行った 2 週間の奉仕活動で、私の人生は一転しました。ロータリーは、可動式の歯科診療所を提供し、実際にそれを使用して治療を行う機会を私に与えてくれました。ロータリー財団の支援なしには、米国イリノイ州南部にある田舎町の、一介の歯科医にすぎない私のような人間がこのよ

うな機会に恵まれることもなかったでしょう。私たちのロータリー財団は、支援を受ける人々の生活に変化をもたらすだけでなく、ロータリアンの人生をも変えるものなのです」

4月：ロータリー雑誌月間*

今回のロータリー財団考は、「平和」「ロータリー平和フェロー」について取り上げます。

平和 「『ロータリーは本当に平和のための力になれるのか』、『法的な力を有していない』、『宗教の支えもない』、『軍隊や戦車を持っているわけでもない』、『非政府組織にすぎない』などと、ロータリーに懐疑的な人は言うかもしれません。これらはいずれも、平和は権力や武力によって維持できるという観点に基づいており、または政治に責任を押し付ける観点であるとも言えます。ロータリーは、人々を分け隔て、互いを非難し合うような壁をなくしていこうと、常に組織的に平和構築を目指してきました。協力して人類全体に奉仕できるよう、人種、宗教、文化の違いを乗り越え、互いの観点を理解し合うことによってこそ、グループ間の緊張が緩和され、友情を培うことが可能となります。人道的支援は、紛争の火種となる飢餓、疾病、非識字、経済危機に対応するためのロータリーの答えです」
デイビット C. フォーワード著「奉仕の一世紀：国際ロータリー物語 (A Century of Service: The Story of Rotary International)」より抜粋。

ロータリー平和フェロー オーストラリアのクイーンズランド大学に留学した元ロータリー平和フェロー、アリク・グトラー・オフィルさんは、イスラエルで戦争、平和、社会正義を考える催しを主催しました。演劇の半分はアラビア語、残りの半分はヘブライ語で上演されました。グトラー・オフィルさんは、劇の鑑賞に来てくれた人々に、芸術など、紛争以外のことに対する関心を分かち合ってもらいたいと感じています。約 700 人が参加した同行事では、5 日間のあいだに 9 つの演劇が上演されました。

ロータリー平和フェロー 2008-10 年度ロータリー平和フェローのヴァネッサ・コントプロスさんは、米国(第 5330 地区)のテメキュラ・ロータリー・クラブの推薦を受け、イギリス、ブラッドフォード大学に留学し、平和構築における芸術と音楽の役割を研究テーマとしました。コントプロスさんは卒業後、故郷のサンディエゴに戻り、留学前に従事していた音楽療法士としての仕事に戻りました。彼女は現在、同僚と「Create4Peace」というコンサルタント組織を設立し、創意的なリソース、ワークショップ、研修を通じて、平和構築団体を支援することを使命として活動しています。すでに地元の団体を対象に活躍しているコントプロスさんと彼女の同僚は、これからの活動を、国内と海外の団体に広げたいと願っています。

平和 「希望とは、ポリオのない世界、飢餓のない世界、世界平和といった、より良い何かを求めることです。希望があればこそ、人は立場を問わず、活動が続けていくことができます。希望がなければ、人生は絶望以外の何ものにも成りえないでしょう」

— 1986-87 年度 RI 会長、M. A. T. カパラス

* 今月の財団考は、平和と紛争予防／紛争解決にも焦点を当てています。

5月*

今回のロータリー財団考は、「平和」「きれいな水」「水と衛生設備」「マッチング・グラント」について取り上げます。

平和 「人類は今、ある重大な局面を迎えつつあります。それは戦争ではなく、平和という時代への局面です。今こそ、相反する欲望や、根強く残る国家間の経済的敵対心ではなく、新たな関係を築いていく時です。そのような関係は、国家また国民のすべての人々にとってさらに良い世界を創造していくための前向きな活動を行うエネルギーを解き放ってくれるでしょう」

— 1977-78年度 RI 会長、ジャック・デービス

きれいな水 ロータリアンは、ロータリー財団のマッチング・グラントの支援を受けて 150,000 ドルのプロジェクトを実施し、ドミニカ共和国の家庭に 1,250 個のバイオサンド・フィルターを設置しました。これは、第 4060 地区の「Children's Safe Water Alliance」というプロジェクトの一環として行なわれたもので、わずか 7 年間で、17,000 個の浄水フィルターときれいな水が、300 の地域で生活する 10 万人の人々に提供されました。「Children's Safe Water Alliance」の生みの親は、当時、ドミニカ共和国のプエルトプラタ・イザベル・デ・トレス・ロータリー・クラブの会長を務めていたボブ・ヒルドレスさん、米国ミシガン州のロックフォード・ロータリー・クラブのジェームス・ボーデナー元クラブ会長と妻のスーザンさんでした。

水と衛生設備 毎日、不衛生な水や劣悪な衛生環境が原因で、5,000 人の子どもが命を落としています。「水は命であるというのは真実ですが、多くの人々が安全な飲み水のない暮らしをしているというのは実に悲しい事実です。しかし、ロータリーには、世界中に、安全な飲み水を大勢の人々に提供するための専門知識を備えた会員がいます」と、ウィリアム B. ボイド元 RI 会長は述べています。

マッチング・グラント 年次プログラム基金への寄付は、文字通り恵まれない人々をより良い生活へと導く懸け橋を築いています。エルサルバドルでは、17,600 米ドルのマッチング・グラント・プロジェクトにより 3 本の橋が建設されたおかげで、およそ 2,500 人の生活が改善され、農作物の売買が盛んになり、経済は発展し、医療や教育の機会も増えました。また、思いがけない恵みももたらされました。橋の建設にあたり、地面を掘っていたところ、良質の水源が見つかったのです。今では、住民たちは橋を渡り、この水源を利用しています。

* 5 月は、ロータリー・カレンダー上の公式行事がありません。今月の財団考は、水と衛生設備に焦点を当てています。

6月：ロータリー親睦活動月間

今回のロータリー財団考は、「財団プログラム」「毎年あなたも100ドルを」「マッチング・グラントの協同提唱者」「財団を祝う」について取り上げます。

財団プログラム リンダ・コブル元地区ガバナーは以下のように話します。「私は1987年にロータリアンになりましたが、遠い国を訪れて赤ん坊に経口ワクチンを投与した経験はまだありません。クラブの仲間と一緒にフィリピンの学校を訪れ、袖をたくし上げて学校の再建に尽力した、という経験もありません。研究グループ交換のチームを率いて海外を訪れたこともなければ、プロジェクトに取り組む医師団に同行して海を渡ったこともありません。でも、心の中ではいつもそれらの活動に加わってきましたし、これからもそうしていくでしょう。財団には、いろいろな方法で貢献することができます。マルチプル・ポール・ハリス・フェローとして、私は自分の寄付したお金がロータリアンたちによって綿密かつ直接活用され、人々のために役立っているということを知っています。わたしもまた、『超我の奉仕』の精神を共有しているのです」

毎年あなたも100ドルを 「痛み、苦しみ、そして死への恐怖を訴える叫び声が、世界の3分の1の地域から聞こえてきます。世界では、10秒に1人の割合で子どもが死亡しています。ロータリーは、このような世界に変化をもたらすことができる人道的組織です。年次プログラム基金の地区目標を達成することによって、私たちはより良い世界を築いていくことができます。『毎年あなたも100ドルを』推進活動を通じて、年次プログラム基金をご支援ください。皆さんからの寄付は、命の贈り物となります」

— ロータリアン、ボブ・ホロウェイ

マッチング・グラントの協同提唱者 ソーシャル・ネットワーキング・サイト「Facebook」で、ある2人のロータリアンが知り合ったことがきっかけとなり、2つの国の10のロータリー・クラブが参加するロータリー財団のマッチング・グラントが実施されました。インドと米国のロータリー・クラブが、マッチング・グラントを活用して8つの学校に浄水装置を設置し、6,000人の子どもに恩恵をもたらしました。補助金は、それらの浄水装置を購入し、各学校に設置するために利用されました。このプロジェクトによって、生徒たちはそれまでに得ることができなかったきれいな水を利用できるようになり、結果として不衛生な水が原因で感染する疾病の発生数は減少しました。また、生徒の勉学への関心は高まり、登校率が上昇したほか、生徒の自尊心が養われました。

— ロータリアン、ヘレネ・ボ・モース

財団プログラム 「世界が好ましくない方向に進みつつあるとき、ロータリアンがそれを『軌道修正』していけるようロータリー財団は存在しています。世界には問題が山積みとなっており、ロータリアンは寸暇を惜しんで活動しています。ロータリアンが参加したり、実行したりするロータリー財団のプログラムやプロジェクトは、世界をより良い場所にするための手段であり、このような手段を備えているロータリアンは、増加する支援のペースに遅れを取らぬよう懸命に活動しています。そんなとき、ロータリー財団の財務支援が大きな役割を果たすのです。ですから、私たちも「毎年あなたも100ドルを」を通じて財団の年次プログラム基金を支えて

いかなければなりません。私たち一人ひとりにとって特別な意味を持っています。世界をより良い場所にしていくためにロータリーの手段をいかに駆使していくか、それを日々、決定していくチャンスが私たちに与えられているのです」

— ロータリアン、バーブ・フェダー

財団を祝う ハロルド・トーマス 1959-60年度 RI 会長が、ロータリーが世界で実践している善き行いについて、自作の詩「After All」の中で以下のように詠っています。ロータリーの未来を祝うと同時に、皆さまのご尽力に心より感謝申し上げます。

Bridges of friendship could be built (友情の橋は架けられる)
Where in war men's blood was spilt (男たちの血で染まった戦場でも)
Bridges built in Rotary's way (ロータリーの思いで架けた橋)
Bridges built to speed the day (早くその日が来るようにと架けた橋)
When peace and concord will hold sway (平和と調和が世を動かせば)
That man may reach his long-sought goal (待ちに待った目標を果たせるだろう)
Neighbors all from pole to pole (地球の果てから果てまで、誰も彼も皆隣人)
One human race with ties that bind (絆で結ばれた人類はひとつ)
One humane world, one humankind. (人間世界は一つ、人類はひとつ)